

書く・描く・画く
— Write · Draw · Paint

書く、それは自分を表現すること。
描く、それは心を映すこと。
画く、それは創造すること。
私たちがつくる様々なペン先は、使う方々の想いを表現するお手伝いをしています。

人にやさしく
— Quality of Life

私たちのつくる医療機器は、
安全性・機能性を追求し、
患者様のQOL (quality of life) のさらなる向上を目指しています。

美しく、より美しく
— Beautiful and Elegant

みなに渡るペン先のモノづくりで積み重ねた技術を生かし
安全性に配慮した、
人に優しい製品づくりを心がけています。

2026年3月期第2四半期（中間期）

決算補足説明資料

2025年11月7日



オーベクス株式会社



証券コード | 3583

01－会社概要

02－事業内容

03－2026年3月期第2四半期（中間期）決算概要

04－配当について

05－長期ビジョン

06－第9次中期経営計画

07－サステナビリティについて

商 号	オーベクス株式会社
資 本 金	19億3,983万円
代 表 者	代表取締役社長 栗原 則義
創 立	1892年（明治25年）12月12日
設 立	1893年（明治26年）12月29日
本 社	〒130-0026 東京都墨田区両国4-31-11 ヒューリック両国ビル9F
連 絡 先	TEL：03-6701-3200(代) / FAX：03-6701-3023
事 業 内 容	【テクノ製品】 サインペン先、コスメチック用ペン先の製造販売 【メディカル製品】 医療機器の製造販売
従 業 員 数	125名（連結 368名） ※2025年3月31日現在
グループ企業	オーベクステクノロジー株式会社 オーベクスメディカル株式会社 天津奥貝庫斯技研有限公司

真心をこめて、暮らしに欠かせない文化と科学を提案することにより、 豊かな社会づくりに貢献できる企業を目指します。

人と社会に正しい貢献を。

当社の創業者である渋沢栄一は、著書である『論語と算盤』の中で「富を成す根源は何かといえば、仁義道德、正しい道理の富でなければ、その富は完全に永続することができぬ。」と述べています。

その理念を受け継ぐ当社は、企業の存在価値を「どんなに技術が進歩し、さらに高度な時代になろうとも、人と社会に対する正しい貢献の在り方」と考えています。

いつの時代も、可能性をあきらめず、まっすぐに。

当社は、明治・大正・昭和・平成と社歴を積み重ねてきました。その間、戦争、度重なる恐慌、大震災、戦火による全工場の焼失、中折帽子の斜陽化、石油危機、バブル経済崩壊など幾多の試練に直面してきましたが、先人たちは、誠実さと不屈の精神で活路を切り開いてきました。

この誠実さと不屈の精神は、私たちの誇りであり、かけがえのない財産として受け継がれています。

「より役立つもの、より優れたもの」を。

当社は、豊かな社会づくりに貢献するため、「より役立つもの、より優れたもの」を常に追求しています。これらを実現するためには、アイデアを生み出す「企画開発」、それを実用化する「技術開発」、安定した製品を生み出す「生産技術」、より品質を高める「品質管理」のどれひとつをとっても欠かせないものであると考えています。「より役立つもの、より優れたもの」を生み出すために長年受け継がれてきた誠実さと不屈の精神で日々モノづくりに取り組んでいます。

モノづくりを通じて拓がる未来へ。

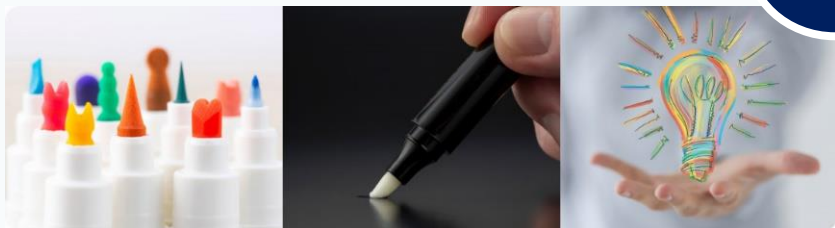
当社の社名であるAuBEX（オーベクス）は、黎明、曙を意味するフランス語の“AUBE”と可能性、未来の意味合いを持つ“X”とからなる合成語であり、「新しい可能性への曙」「拓がる未来」を意味しています。

豊かな社会づくりに貢献する企業を目指し、これからも誠実さと不屈の精神をもって、モノづくりを通じて「人に想いを伝える。人の想いに応える。」企業として、その未来を拓げていきます。

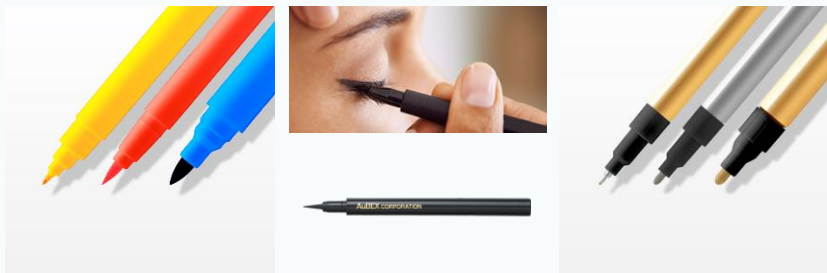
当社は、近代日本資本主義の父といわれる渋沢栄一が設立した会社です。1892年（明治25年）に舶来山高帽子の国産化を目的とする東京帽子株式会社として創業し、1985年（昭和60年）に現在のオーベクス株式会社に社名を変更しております。1892年の創業以来、長い歴史の中でいくたびかの変遷を経て、長年の帽子製造で培った加工技術を応用し、現在ではペン先メーカーとして世界市場で高いシェアを持っております。ペン先製造技術をさらに進化させ、医療機器分野やコスメ分野へと、その事業活動を拡げております。

テクノ製品事業

売上
構成比率
72.9%



サインペン先、マーキング用ペン先などの筆記具関連、アイライナー用ペン先、ネイルケア用ペン先などのコスメチック関連を主力製品として、その他スタイラス用ペン先などのPC周辺関連をはじめ、芳香剤用芯などを取り扱っております。



メディカル製品事業

売上
構成比率
27.1%



自社開発の流量制御チューブを採用した薬液注入器や安全性と利便性を追求した親水性ガイドワイヤーを主力製品として、その他医療用材料を取り扱っております。



決算サマリー

連結売上高 2.2%増 営業利益 28.0%減 中間純利益 17.3%増

- 今期より、新中期経営計画（オーベクスビジョン2027）がスタート
- テクノ製品事業、メディカル製品事業とも売上は堅調に推移
- 営業利益は、人件費の増加や原材料費等のコスト増加により減益
- 中間純利益は、繰延税金資産の計上に伴い税金費用が減少したため増益



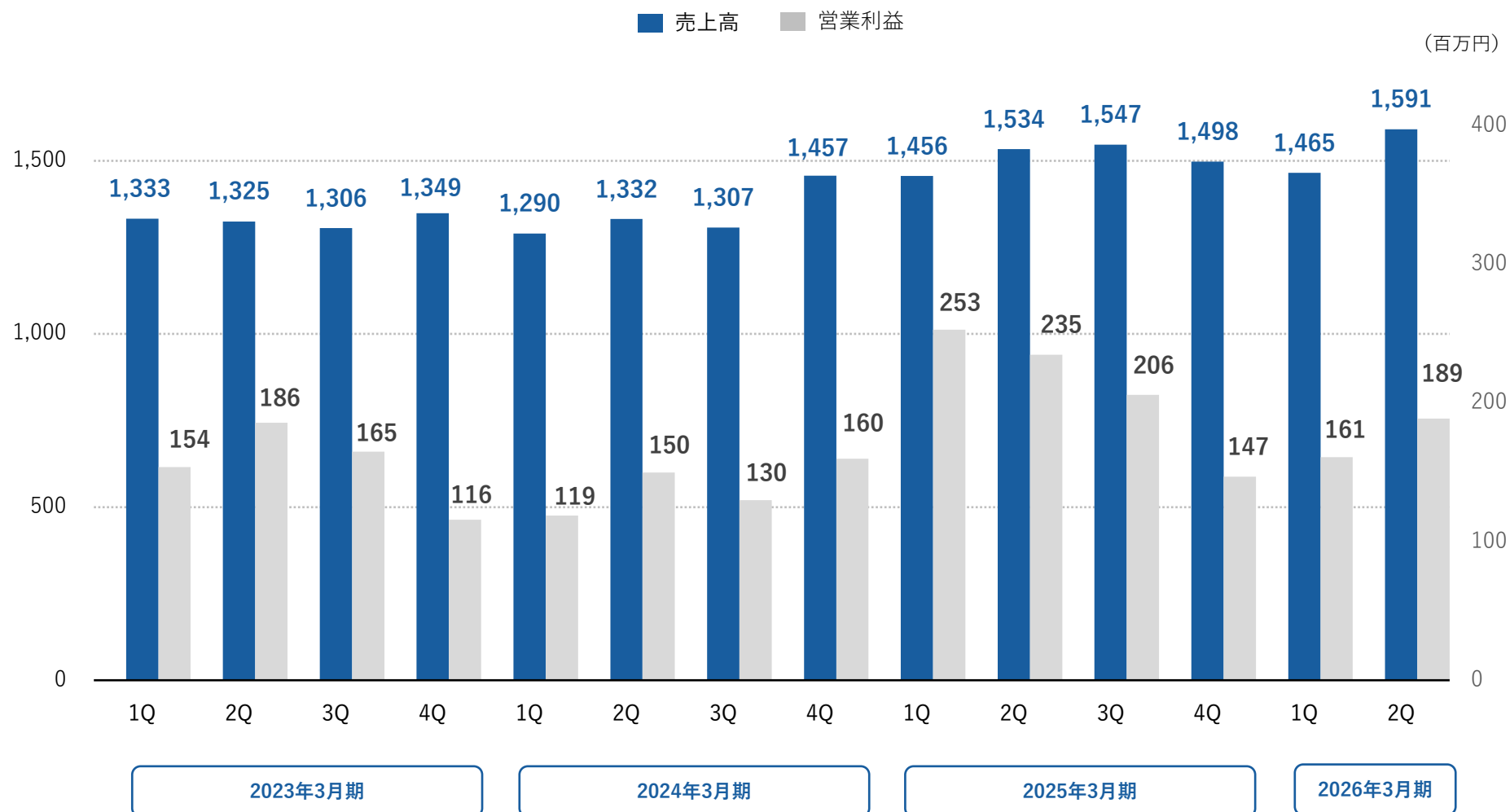
連結損益計算書（P/L）

- ・売上高は、テクノ製品事業、メディカル製品事業ともに堅調に推移し、2.2%増の3,056百万円。
- ・営業利益は、賃上げによる人件費の増加や原材料費等のコスト増加により、28.0%減の351百万円。
営業利益率は、11.5%となり、前年同期比で4.8ポイント減少。
- ・親会社株主に帰属する中間純利益は、繰延税金資産の増加に伴い税金費用が減少したため、17.3%増の354百万円。

（百万円）

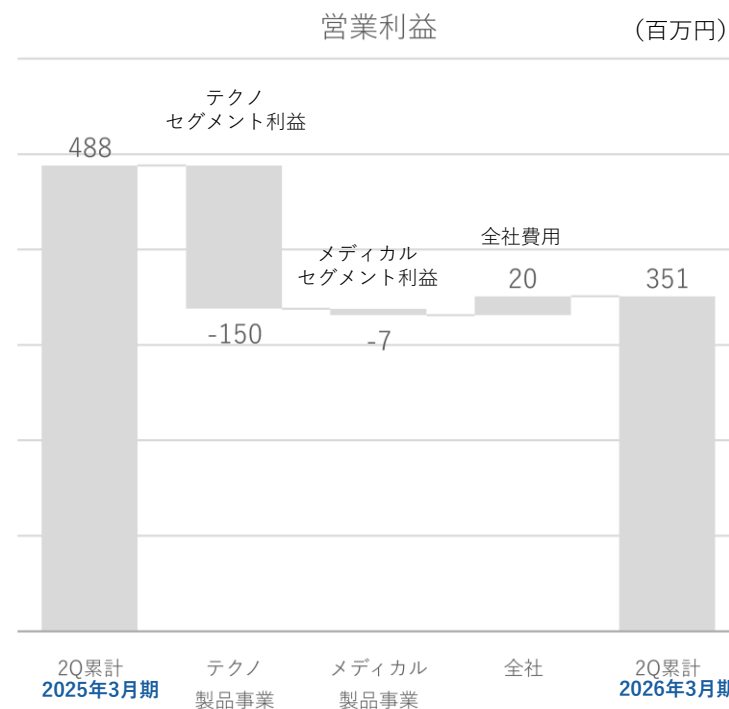
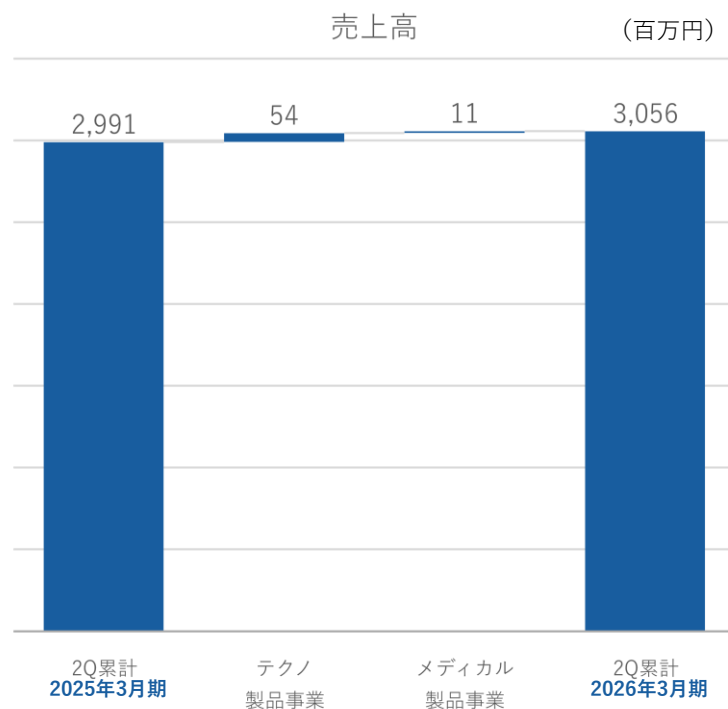
	2025年3月期				2026年3月期	前年同期比
	第1四半期	第2四半期 累計期間	第3四半期 累計期間	通期	第2四半期 累計期間	
売上高	1,456	2,991	4,538	6,035	3,056	+2.2%
営業利益	253	488	695	841	351	△28.0%
経常利益	271	453	697	814	350	△22.7%
親会社株主に帰属する 当期純利益	179	302	454	580	354	+17.3%

売上高・営業利益の四半期推移



売上高・営業利益の増減要因

- ・売上高は、前年同期比で65百万円増加。テクノ製品事業は主力製品である筆記具関連が伸長したもののコスメチック用ペン先は低調。メディカル製品事業ではシェア拡大に向けた販売活動に注力。
- ・営業利益は、前年同期比で137百万円減少。主にテクノ製品事業における増産に伴う人員増加による労務費や原材料費等のコストが増加。



セグメント別状況

- テクノ製品事業

中国を含むアジア地域の売上は好調に推移。主力製品の筆記具関連の売上が伸長したもののコスメチック用ペン先は低調。増産に伴う人員増加による労務費や原材料費等のコスト増加により増収減益。
- メディカル製品事業

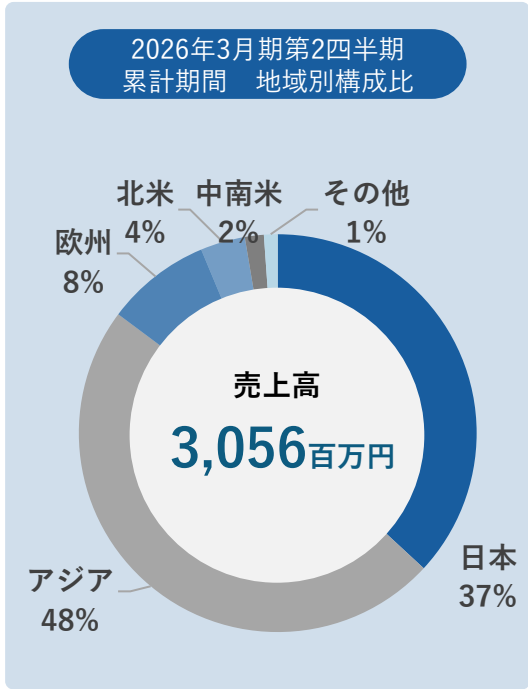
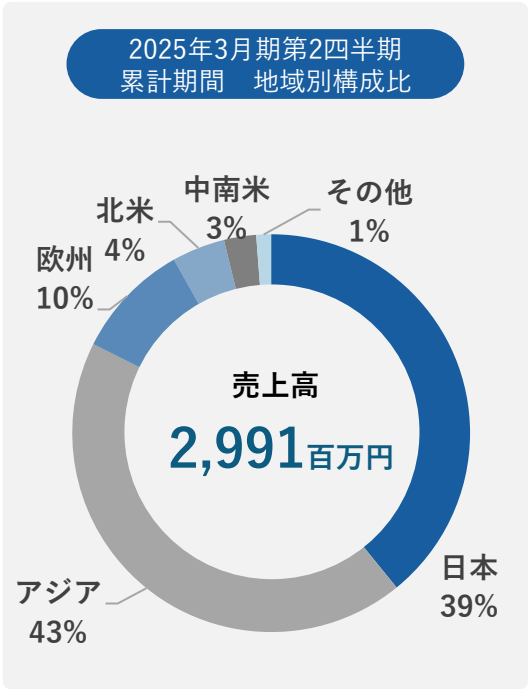
積極的なプロモーション活動の展開により、売上は堅調に推移したものの販売経費の増加により増収減益。

	(百万円)					
	2025年3月期 第2四半期累計期間		2026年3月期 第2四半期累計期間		前年同期比（％）	
	売上高	セグメント 利益	売上高	セグメント 利益	売上高	セグメント 利益
テクノ製品事業	2,174	598	2,229	448	+2.5	△25.1
メディカル製品事業	816	65	827	58	+1.3	△10.6

地域別売上状況

中国を含むアジア地域は伸長したものの、欧州、北米、中南米地域の売上は低調に推移。

	(百万円)		
	2025年3月期 第2四半期 累計期間	2025年3月期 第2四半期 累計期間	前年同期比 増減率(%)
日本	1,169	1,126	△3.7
アジア	1,292	1,475	+14.1
欧州	283	260	△7.9
北米	129	111	△14.2
中南米	78	47	△40.1
その他	36	34	△4.0
合計	2,991	3,056	+2.2



連結キャッシュフロー

- ・当中間連結会計期間末における現金及び現金同等物の残高は、2,742百万円。
- ・営業活動によるキャッシュ・フローは、276百万円の資金の増加。
- ・投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得等により46百万円の資金の減少。
- ・財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入金の返済等により247百万円の資金の減少。

	(百万円)	
	2025年3月期 第2四半期累計期間	2026年3月期 第2四半期累計期間
営業活動によるCF	312	276
投資活動によるCF	△202	△46
財務活動によるCF	△391	△247
現金及び現金同等物の増減額	△292	△8
現金及び現金同等物の中間期末残高	2,548	2,742

連結貸借対照表（B/S）

（百万円）

資産の部	2025年3月期	2026年3月期 第2四半期	増減
流動資産	6,585	6,587	2
固定資産	3,257	3,373	116
有形固定資産	2,944	2,945	1
無形固定資産	33	32	△1
投資その他の資産	279	395	115
資産合計	9,842	9,961	118

（百万円）

負債・純資産の部	2025年3月期	2026年3月期 第2四半期	増減
流動負債	1,639	1,585	△54
固定負債	1,495	1,423	△71
負債合計	3,135	3,009	△125
株主資本	6,529	6,754	225
資本金	1,939	1,939	－
資本剰余金	517	517	0
利益剰余金	4,328	4,582	253
自己株式	△256	△284	△28
その他の包括利益累計額	178	197	19
純資産合計	6,707	6,952	244
負債・純資産合計	9,842	9,961	118

2026年3月期
第2四半期（中間期）自己資本比率
69.8%流動比率
416.6%固定比率
48.5%

連結業績予想（2025年5月12日発表）

- 2026年3月期の通期連結業績予想につきましては、売上高6,200百万円、営業利益750百万円、経常利益730百万円、親会社株主に帰属する当期純利益510百万円を見込んでいます。

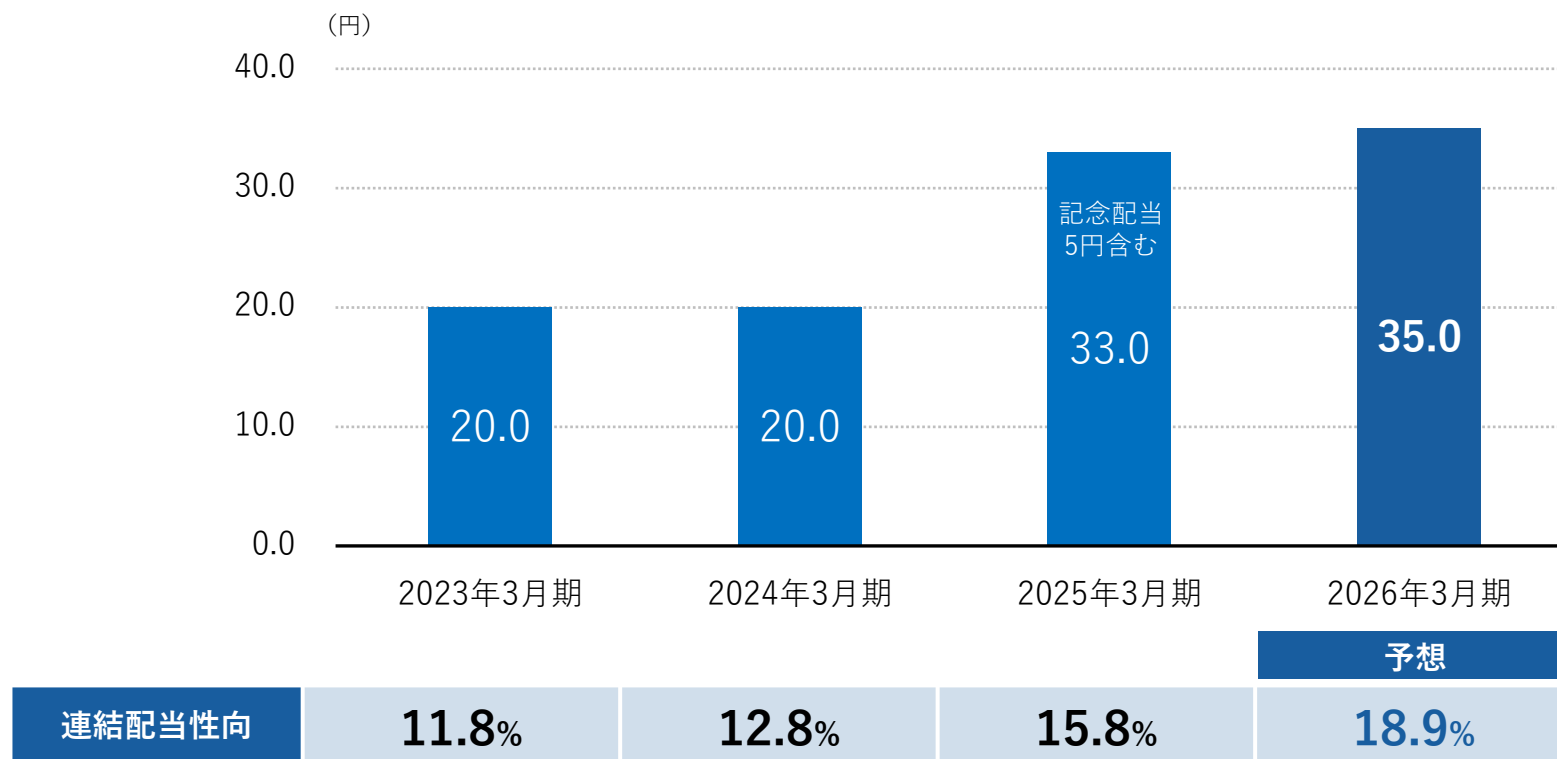
（百万円）

	第139期 2024年3月期 （実績）	第140期 2025年3月期 （実績）	第141期		
			2026年3月期 （予想）	2026年3月期 第2四半期（実績）	進捗率（％）
売上高	5,387	6,035	6,200	3,056	49.3
営業利益	560	841	750	351	46.9
経常利益	600	814	730	350	48.1
親会社株主に帰属 する当期純利益	436	580	510	351	69.6

配当方針

利益配分に関しましては、株主の皆様への利益還元を最重要課題の一つと考えており、将来に向けた研究・開発、設備投資等を行うための内部留保の充実を図りつつ、中長期的視野に立って収益に対応した安定配当を行うことを基本方針としております。

配当金の推移



長期ビジョン達成に向けたストーリー

- ・テクノ製品事業は高付加価値製品の開発強化により事業基盤としての収益性の更なる向上を図る。
- ・メディカル製品事業はベセルフューザー®を成長のドライバーとして位置付け収益基盤を強化する。
- ・グループコア技術を結集し、第3の事業を創出する。

2034年度
/150期2027年度
/143期2024年度
/140期

第8次中期経営計画（実績）

売上高 60.3億円
営業利益 8.4億円
ROE 8.9%

第9次中期経営計画

売上高 70億円
営業利益 10億円
ROE 9%以上

第10次～ 中期経営計画

長期ビジョン達成に
向けた主要施策

テクノ製品事業

- ・コア技術の深化による高付加価値製品と環境負荷低減製品の開発
- ・増産対応への設備投資
- ・省力化推進による生産効率化
- ・海外拠点の拡充

メディカル製品事業

- ・既存市場拡販と高付加価値製品の新規分野への参入
- ・海外展開準備と新規販路開拓
- ・新工場建設用地取得予定

テクノ製品事業

- ・高成長エリアへの販売強化
- ・高付加価値製品の開発
- ・増産に向けた工場リニューアル

メディカル製品事業

- ・高付加価値製品の企画開発
- ・海外展開の本格化
- ・増産に向けた新工場建設予定

基本方針：ESG経営を推進し、新たな価値創出と持続可能な成長を追求する
スローガン：To The Next Stage ～次のステージに向かって～

基本戦略

基本戦略-1

■強固な収益基盤の構築

当社の強みである成形技術をさらに進化させ、新たな価値を創出する。

基本戦略-2

■環境負荷低減の推進

温室効果ガス排出量削減の取り組みを進めるとともに環境配慮型製品の開発、拡販を行う。

基本戦略-3

■成長を支える人財育成

人的資本投資を行うことで、従業員エンゲージメントを高める。ガバナンスを強化し、持続可能な体制を維持する。

最終年度定量目標（2027年度/143期）

売上高

70億円

140期比 +16.0%

営業利益

10億円

140期比 +18.8%

営業利益率

14.3%

140期実績 13.9%

ROE

9%以上

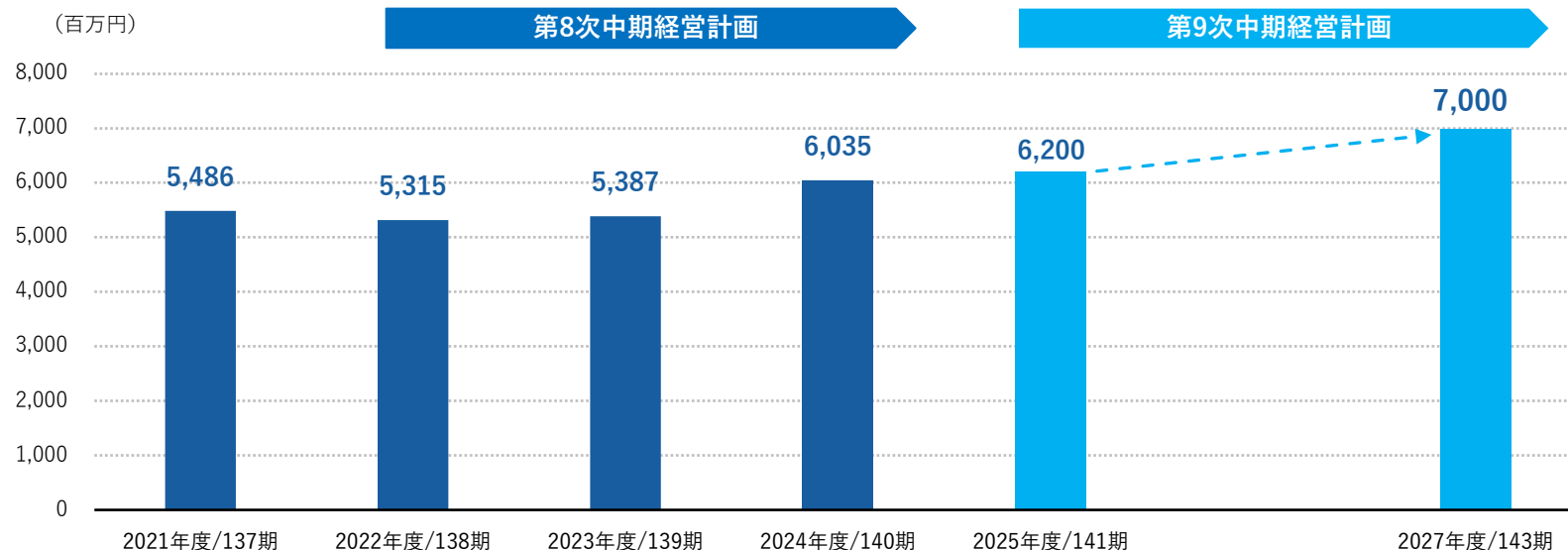
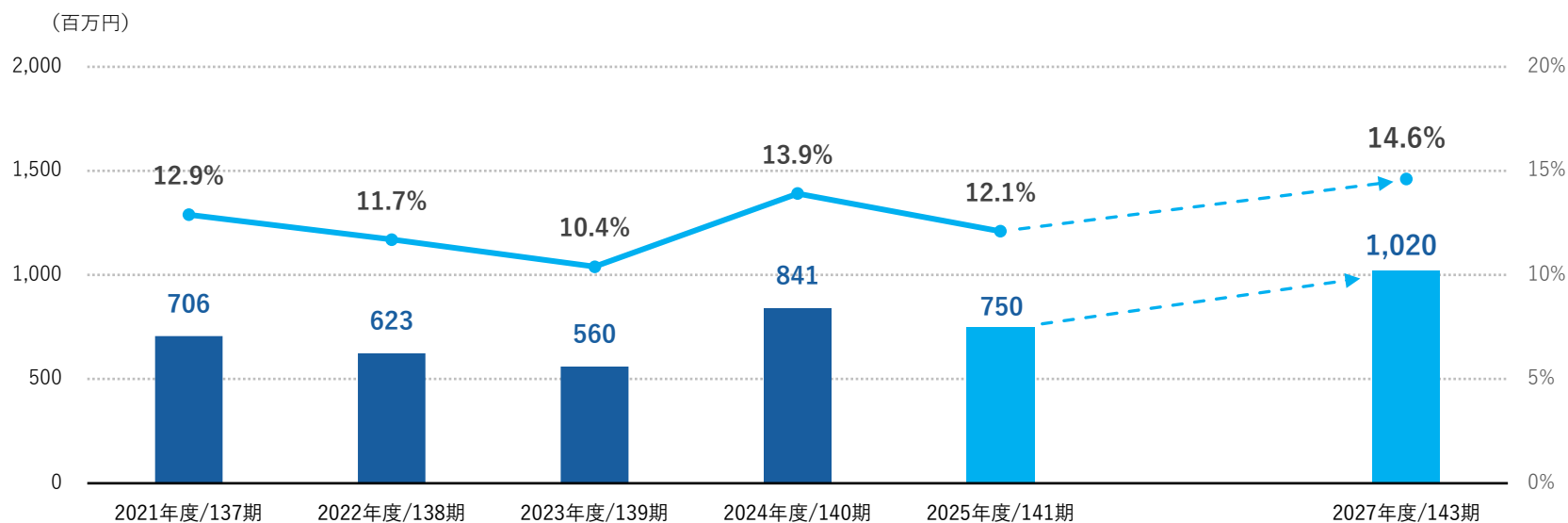
140期実績 8.9%

中計3ヶ年合計

設備投資

15億円以上

前中計比 +167.8%

売上高
(百万円)営業利益
(百万円)営業
利益率
(%)

サステナビリティへの取組

当社の創業者である渋沢栄一翁の経営哲学「道德経済合一説」（仁義道德と生産殖利とは元来ともに進むべきもの）は、持続可能な社会を目指すものであります。その精神を受継ぐ当社は、「真心をこめて、暮らしに欠かせない文化と科学を提案することにより、豊かな社会づくりに貢献できる企業を目指します。」を経営理念に掲げ、「オーベクスグループ行動規範」を定めるとともにリスクマネジメント方針をはじめとする各方針を策定しております。環境問題、社会的課題への対応を経営課題の重要事項のひとつと位置付け、ESG経営を推進することで持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

環 境 Environment

大気汚染対策 廃棄物対策
環境に配慮した製品開発



社 会 Social

働き甲斐のある職場環境 人財育成
人権の尊重 地域社会への貢献



ガバナンス Governance

コンプライアンス（法令と社会規範の遵守）
積極的な情報開示 リスク管理



本資料のお取り扱い上の注意

本資料に記載された見解や見通し、ならびに予測等は資料作成時点での当社の判断であり、その情報の正確性を保証するものではありません。

様々な要因により、今後の業績は本資料の内容と異なるものとなる可能性があります。また、本資料は当社をご理解いただくために作成したものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。

IRに関するお問い合わせ

https://www.aubex.co.jp/contact_request/

オーベクス株式会社

コーポレートサイト <https://www.aubex.co.jp/>